

教育研究データ			
1. 氏名		上利 学	
2. 生年月		1965年4月	
3. 取得学位		修士(文学)	
4. 教育業績			
教育上の能力に関する事項	年月	概要	
(1) 教育内容・方法の工夫	2017年4月	① TOEICのスコアを伸ばし、さらに実践的な英語力を身につけるために、過去のTOEIC結果を分析し抽出した課題をもとに対応策を立案した。具体的な勉強方法を学生に提示して取り組みやすい環境を作った。	
	2018年4月	② 語彙習得の効果を上げるため、ソフトを利用して語彙補強に重点を置いた取り組みを立案した。	
	2020年9月～2021年1月	③ 教員採用試験対策としてリーディングと文法に重点を置いた週2回の課外授業を4名の英語教員と協力して実施した。	
(2) 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
5. 研究業績			
(1) 著書	単著 共著 の別	発行の 年月	発行所
① “Malory’s <i>Body and Corpse</i> ,” 中尾佳行、地村彰之(編)『独創と冒険』、pp. 79-94.	共著	2001	英宝社
② “Towards the Division of the Round Table in the <i>Morte Darthur</i> ,” in <i>The Pleasure of English Language and Literature</i> , ed. Hideshi Ohno, Kazuho Mizuno, and Osamu Imahayashi, pp. 1-10.	単著	2018	溪水社
(2) 学術論文	単著 共著	発行の 年月	掲載紙および巻/号, 頁

	の別		
① “Semantic Change of <i>Appeach</i> in Late Middle English”	单著	2010	<i>Bulletin of Hiroshima Bunkyo Women’s University</i> 45, 25-34 (in Japanese).
② “New Compositors at Work in Caxton’s <i>Malory</i> ”	单著	2014	<i>Poetica</i> 81, 15-32.
(3) 研究・作品発表	発表の年月		発表学会等
① “‘Appeachment’ in <i>The History of Reynard the Fox</i> ”	2010年8月		The 51st Summer Seminar of the English Research Association of Hiroshima
② “A Reappraisal of Lancelot’s Pursuit of Honour in the <i>Morte</i> ”	2017年8月		The 58th Summer Seminar of the English Research Association of Hiroshima
(4) 所属学会			
① 日本英文学会			
② 日本中世英語英文学会			
③ 近代英語協会			
④ 日本英文学会中四国支部			
⑤ 広島英語研究会			